

2002 1/1-2

・・・今再び、中央アルプスに魅せられて・・・

昨年はまずまずの天候に恵まれてちか子と二人で素晴らしい正月を迎えられた中央アルプス・・・、今年はWhite Birdの精鋭メンバー？の望月証、田代恵子の3人で足を踏み入れた。当初の予想通りの悪天に見まわられて吹雪、ラッセル、ホワイトアウトと冬山の3拍子に終始見舞われたが、無事に生還。

個人装備

・12本爪アイゼン・ピッケル・8環・ビナ・ハーネス・デジィー・スノーシュー・食料2食・バーナー・ガス・コッフェル・高度計・磁石・1/2500地図・アウター上下・羽毛上下・シュラフorカバー or マット・テルモス・行動食

共同装備

・8mm ロープ 20 m・テープスリング・3人用テント・ビデオカメラ

12/31

姫路を午後から出発し駒ヶ根SAに19時頃到着。空は見事に晴れ渡り大きなお月さんが煌々と輝いている。しかし天気予報では明日の午後から寒気が入り込み好天は望めないと・・・。「今日、朝から登っていたら、最高の大晦日を山上で向かえ、明日は初日の出も見られたのに・・・」と恵子嬢がモッチャんの顔を見て嘆く。当のモッチャんは年末まで終始仕事に追われていてこの日の午前中まで仕事だった(かわ



SAで年越しそば

いそう)

夜は紅白を見ながら(私はK1vsプロレスを見たかった) 恵ちゃんの手作りのおせち料理でカウントダウンまでくつろぐ、外はまだまだ快晴で極冷え。

1/1 - 15° 曇り・雪・吹雪

朝一番のバスで移動(と言っても始発8:15は遅すぎ~)し、ロープウェイ終点千畳敷駅へ・・・そこはもう別世界。

しかし、いつも通り中央アルプス名物の厳しい厳しい関門が待っている。去年の25日に雪



1日朝のアルプスは好天気

崩れに遭遇して女性1人が亡くなっているのが無理もない、28、29日は入山禁止だったそうである。

登山届けの提出を強いられるが、持参しているのは我がパーティーのみ・・・一段とパトロールの顔が厳しくなる。

千畳敷カールの八丁坂周辺は雪崩れの巣になっていて、未だ雪崩れていないのが核心部だ



けだという（行くなと言わんばかりである）しかし昨日は和合山に続く小さな尾根づたいにトレースをつけて20人ほどのパーティーが入っているとのフォロー、しかしここでも一人が核心部で20mほど滑落していたと脅される。

我々の登山届けを見て、宝剣山荘に泊まるのにテン

ト装備一式を持っている重装備に少し驚いている様子だった。

早速、フル装備に身を固めアイゼン、ハーネス、デイジー、ロープと本格的な装備をまとめて外へ出るとそこにも、パトロールが一言、二言・・・とりあえずあの辺まで様子を見に行ってきますのでと出発。

千畳敷カールはガスって白一面で分かりにくい。和合山の取り付きに3パーティーほどが右往左往しているのが見え、一人が5mほど滑落しているのが見えた。

途中、和合山経由で下山してきたパーティーと色々話し情報を聞く。ダケカンバ帯のラッセルを過ぎ、ハエマツのアイスを通じたあたりから岩と氷のミックスタイプになり斜度も増して風が吹きさらしになるとのことであった。

ダケカンバ辺りで先行パーティーが次々と引き返してきている。下山パーティーとハエマツアイスあたりですれ違い、「突風に気を付けて」と注意をいただく。

もう我々の前には誰もいないが、2～3パーティーが間をおいて後をついてきている。

恵ちゃんのアイゼンの具合が今一でよく滑ってい

る、よくよく聞けば蹴り込んでいないとのこと（そりゃあかんやろ）、モッチちゃんは久々の雪山にウキウキだ。

ミックスタイプ前で恵ちゃんが遅れだしたようなのでロープを出してコンティニアスで私・恵ちゃん・モッチちゃんと5m間隔で一歩一歩登り詰めていく。ここで後続パーティーは無理と思ったのか誰も来なくなってしまった。

ミックスタイプにさしかかると斜度も45°以上になり時折突風にあおられこれ以上コンテは危険と判断し、スタカッドに切り替えて、15m10ピッチほどを慎重にアックスピレーを確実に取りながら登っていき、稜線にたどり着いた。この時点でマイナス15°、視界は100m以上。たかだか高低差300mほどの直登なのに3時間半もかかった。

稜線にたどり着くと、300m前方には宝剣山荘が見えている。視界も少しよくなって宝剣岳、中岳、木曾駒ガ岳も確認できる。

稜線上をコンテで歩いているとき後ろの恵ちゃんが「キャー」という声とともに突風にあおられ体ごと浮き上がり吹き飛ばされた（ロープをしていてよかったねえ）。



稜線に出る

宝剣山荘の入り口付近に3張りのテントがあった（根性者やねえ）が我々は軟弱なので小屋へ一目散へ・・・12時半に到着。

しばしの暖をとって昼食を済ませて、装備を最小限に減らしてさあ、中岳、木曾駒へ初詣に行こうと外へ出ると、そこはもうさっきの天候が急変していてホワイトアウト寸前の猛吹雪と化していた。あのまま小屋へ寄らずに山巡りをしていたら、小屋への帰りはまたまた緊張の連続であったら



囲碁でくつろぐ

う。
しかたがないのでタイムリミットギリギリの14:30まで山溪や岳人の本を読んで待機していた(彼女たちは囲碁で遊んでいるが本囲碁は出来ないので五目並べ)が、一向に天候はよくなるい・・・。

完全にあきらめてザックも部屋に片づけてリラックスモードに切り替えて、少し早

い(だいぶんか?)が、一杯モードに入ってしまった。17時の夕食まで本を漁っていた(彼女たちは今度は将棋で遊んでいるが本将棋は出来ないのでヒョコ周り)。

結局、今夜の宿泊客は我々3名+延滞客1名、素泊まり1名、テント撤退者1名の6人であるが、今年は小屋の愛好者のような人達が7人ほど集まって鍋を囲みながらなんやかんやと盛り上がってしまい、結局23時まで飲んでいた(山小屋でこんなに飲んだのは初めてである)。

恵ちゃんは「アホみたいに飲んで明日天候が悪いのにちゃんと私を降ろしてくれるんかいなっ!」と興奮した顔で私をにらんでいたのが飲んでいた記憶にも印象に残っている(反省(^_^;))

1/2 - 20° 猛吹雪 視界0m~10m 新雪50cm

やっぱ飲み過ぎや~、頭が痛い(反省)。おせち料理の朝食もあまり食が進まずじまだった。

昨夜のテント客が「もうたまらん」と言って小屋に駆け込んで入ってきた。

外は相変わらずの猛吹雪。部屋で彼女達を無事に降ろすロープワークのシュミレートをする、結局アックスビレイをとってATCで一人ずつ20mずつ降ろすことに決める。

8:30 出発。

フル装備に身を固めて視界10mもない世界へ・・・。
とりあえず昨日上がってきた稜線上の和合山ピーク付近が目標であるが、昨夜降った大雪で思うように進めない。恵ちゃんは寒いだろうと思い上下フリースを余分に着込んだために「暑い、暑い」と言っている。

私は昨年同様にいくらも行かないうちにまたまたゴーグルが曇ってしまい氷着してしまうアクシデントに・・・、昨日はどうもなかったのに、どうも-20°以上になるとだめなのか?、しかし彼女たちはどうもない、私のおでこに毛穴が密集しているのか?、あぁファン付きゴーグルがほしい。

深雪の中、終始目をかばいながら下山ルートにたどりついた。さぁここから急なミックスルートになるのでロープの出番か?、と思いやあまり強風が吹かなかったのかこの急な斜面も雪がしっかりと付いていた。膝上まで潜るのでロープを出さずにゆっくりと下っていく。私は終始下から強風に目をかばいながら行っては止まりの連続でつらい思いをしていたのに、恵ちゃんは「早く行けよ~、止まってばかりおって、あんたがゴーグルには気を付けろよっ!」って言ってたんやろと思っていたのにはちょっとショック。

一瞬視界が開けると、先に行っていた個人4人が固まって下っているのが目に見えた。視界がないとこんなに近くでも見えないものだ実感する。

途中、ハエマツアイスの上の新雪を下っているとき、いきなり真下で10cmほどの亀裂が3mほど真横に入った、一瞬雪崩れると思ってピッケルをぶち込んだがパウダーのために難を逃れた、モッチャンも同様になったようだ。恵ちゃんはそのことお構いなしにどんどん下っていく「こら~っ、先に行くな~っ、もっと左のダケカンバ帯に寄れ~」と吹雪の中で大声を張り上げる。



標高も2600mを割ってダケカンバ帯に入る時、南の方からロープウェイのアナウンスが聞こえる。ルートファインディングはばっちり決まっていた。

ここからはカールの底歩きになるので腰までのラッセルは間違いなしと踏み、装備変更でアイゼンからスノーシューに履き替える、マイナス15°で素手で行ったが私はあまり冷たく感じなかった。

スノーシューに履き替えても膝までのラッセルではあるが私には快適そのものでパウダーを蹴散らし白ウサギになったような気分であった。モッチャンも初めてのスノーシュー歩きに満足していたようだ。恵ちゃんはワカンアイゼンなので新雪を踏み込むと潜るのでかなり辛そうだ(やっぱ道具やで~)。

しかし、先行パーティは何も持っていないので先頭は腰までのラッセルで右往左往していた(やっぱ・・・)。

千畳敷ホテル入り口でがっちり3人で腕を組み「無事生還！おめでとう！」と写真に収めた。

ホテルに着いたのは11時半。登山客は数名いたが、我々の異様ともいえる顔面つらら状態に目を丸くしていた。この容姿と悪天に断念したもようで腰を落としていた。

駐車場につくとそこでも雪は10cmは積もっていた。早速「駒ヶ根の湯温泉」でゆっくりとくつろぐ。帰りは高速の入り口で冬季タイヤの点検をされた(今年はスタッドレスをはめているのだ)がなんなくクリア。

しかし、雪にまみれた高速道路は大渋滞で帰路に6時間30分もかかった。



無事生還！

PS.

極冷えのためにビデオもカメラもデジタルのために作動しなかったのが少々残念である。こんなときは使い捨てカメラに限る(唯一モッチャンのがたよりだった)。

今回の山行はたまたま無事だったからいいものの決して自慢にはならない山行だったと思っている。いくらフル装備を整えていてもやはり、天候が悪くなるのに登るのは無謀すぎると反省せざるをえない。

しかし、反面この山行で得たものは非常に大きいものがあるのも事実である。

無事生還させてくれた中央アルプスの山の神に感謝するしだいである。



しらび平もこんなに積もっていた

田代恵子

大塚さん・望月君と3人で、今年の初登山・中央アルプス和合山に挑戦してきました。
(ここは去年のGWにスキー登山で行ったところです。)

大晦日のお昼過ぎに姫路を出発し、PM 7時前に駒ヶ根SAに到着。月がとっても綺麗で、いいお天気。明日もこのまま晴れますように！と祈りながら...

駒ヶ根で名ソースカツ丼の夕食を食べ、その後TVの前に移動して、紅白歌合戦を見ながら、持込のビールと焼酎で宴会の始まり・始まり。年越しそばも食べ、12時まで盛り上がりました。そして、車で就寝。

翌朝もいいお天気で、これなら大丈夫かな...登れるかな?と思いながら出発。バスとロープウェイを乗り継いで、千畳敷駅へ。そこで登山届の提出です。が、ここで、千畳敷カールは雪崩の危険があるので、登るのは危ない! 28日・29日は入山禁止だったんですよ...と。昨日は和合山ルートで登った人もいますが、何人が滑落して岩の手前でようやくとまるという危ないこともあったし...、天気も下り気味ですよ...とさんざんおどかされました。数日前に何人が遭難しているようなので、これはやめといた方がいいなあと思いました。

でも、せっかく登ってきたんだから、ちょっとだけ行こう! ダメなら引き返そう! という大塚さんの言葉を真に受けて出発! しかし、大塚さんは初めから上まで登るつもりだったのだ! 降りてくる人たちに



出会い、上の様子を聞いて、大丈夫と判断して、登り続ける。

斜度が出てくると、ずりずり滑り落ちる。そう、久しぶりの雪山だったので、アイゼンの使い方を忘れていたのだ。もっちゃんに、もっと蹴り込んで! と教えられ、あーそうだった...と思い出す。

登っていくと、クラストバーンで、さらに急斜面になる。“大塚さんがロープするか?”と聞いてくれる。パトロールの人の“何人が滑落して...”の言葉で不安だったので、“うん”と即答する。はじめはロープに3人連なって一緒に登っていったが、しかしますます急斜面になりこれでは誰かが落ちたら皆落ちてしまうと判断し、途中から、大塚さんが先に登り確保して、二人が登っていくと言う方法にした。お陰で、安心して登れたし、休憩にもなって楽だった。これでは時間がかかってしまう...と思ったが、けっこう短い距離だったので、あっという間に稜線にたどりつけました。



夜遅くまで盛り上がる

稜線にでるとすごい風で、吹き飛ばされてしまいました。が、すぐに今日の泊まりの宝剣山荘に到着でした。山荘で暖をとり、パンとスープの昼食をとりました。休憩後、木曾駒が岳に登って初詣をしようと準備をして、外に出ようとしたが、休憩している間に一段

と天候がくずれ、猛吹雪、外には出られない状態になってしまいました。

まだ2時頃で、夕食は5時。それまで時間をもてあまして、私ともっちゃんは五並べや、将棋版でありとあらゆる遊びをし、大塚さんはすでに山巡りタイムオーバーで、ビールを飲みながら読書をしはじめました。

5時からの夕食・宴会は延々と夜中11時頃まで続き、持ってきていたウイスキーを飲み干し、山荘の人たちの宴会から、焼酎をふるまわれ、おお酔っ払いの大塚さん。明日は大丈夫かなー？と心配になりました。

翌日、思っていた通り、二日酔いの大塚さん。おせちの朝ご飯も進まない様子。ホワイトアウトのなかの下山なのに、大丈夫？とやや不安がよぎりました....

昨日、クラストバーンだったところは、ロープで降りなければ...と部屋で大塚さんはシュミレーションしていました。が、そこににも新雪が50cmほども積もっていたので、大丈夫でした。

ただ、強風と吹雪で視界が悪く、登ってきたルート間違えないか心配でしたが、先に出た4人のパーティが前に見えたときはほっと一安心でした。

斜度がゆるやかになったところからは、ラッセルだったので、わかんをはきました。ロープウェイ乗り場が見えたときは、“やったー！無事生還したぞ！”とうれしかったのですが、そこからの登りが暑くて、しんどかったです。大塚さんともっちゃんはスノーシューでルンルン楽しそうに登っていきます。

ようやく、ロープウェイ乗り場に到着しました。やったー！！

山荘の往復だけで、どこにもいけなかったけれど、遭難の危険があるなかで、緊張感のあるいい経験ができました。

田代恵子

tashiron@mb.infoweb.ne.jp



斜度60°以上の壁